

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『手をつなごう 未来へ』を合言葉に、子どもたち一人ひとりの自立と社会参加を目標に、学校・保護者・関係機関の連携を図りながら充実した教育活動が展開される明るく元気な学校をめざす。

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動を展開する学校
- (2) 自立・社会参加に向け、保護者や関係機関との連携体制がとれている実効性のある学校
- (3) 地域におけるセンター的役割を発揮できる高い専門性が構築された学校
- (4) 毎日、明るく元気に学校生活を送ることができる健康で安全・安心な学校

2 中期的目標

1 保護者との連携を強化し、一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の展開

- (1) 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がいの状況や特性、到達度を踏まえた学習指導プログラムの作成、教材等の活用を促進する。
- (2) 自閉症スペクトラム障がいのある児童・生徒の特性に応じた指導内容・方法を工夫し、改善を図る。
- (3) 「学校教育自己診断」を毎年実施し、課題の整理、改善に努め、学校経営及び、教育の内容と質の向上を図る。
※否定的意見が30%以上を占める項目については、課題分析を行い、速やかな改善を図る。
- (4) 平成27年度新校開校、高等部受け入れのスムーズな遂行のための計画・準備を行うとともに、新校開校を見据えた学校運営体制の構築とミドルリーダーとなる人材の育成を行う。

2 自立・社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

- (1) 児童・生徒の発達段階に応じたキャリア教育の実践を推進し、キャリア教育プログラムの研究、開発を図る。
- (2) 小学部・中学部教員の進路指導に関する知識を高め、関係機関との連携を推進し、児童・生徒の進路選択に向けた指導力を強化する。
※平成25年度の教職員向け学校教育自己診断におけるキャリア教育の取組み実績は76%であったが、平成26年度には80%以上をめざす。
- (3) 保護者へのキャリア教育や進路指導に係る情報提供の充実を図り、将来的な進路選択に向けた指導と支援を強化する。
※平成25年度の保護者向け学校教育自己診断におけるキャリア教育に対する肯定率は72%であったが、平成26年度には78%以上をめざす。

3 センター的機能の充実・発揮と教員の専門性の向上

- (1) コーディネーターを中心とした地域支援の充実を図り、地域における支援教育力の向上に資する。
※中河内地域の支援学校、中河内地域3市の教育委員会、学校・園のコーディネーターと連携し、相談支援を促進させる。
※地域の支援教育関係教員の専門性向上に資するため、支援教育理解講座やケース会議の開催と、内容の充実を図る。
※平成25年度の保護者向け学校教育自己診断における交流及び共同学習の実施状況に対する肯定率は、67%であったが、今後さらにその意義を周知し、平成26年度には70%以上をめざす。
- (2) 学校ホームページの再構築を行い、保護者に教育情報を発信するとともに、地域の小学校・中学校等の支援教育力向上に資する。
※学校ホームページのトップ画面を、見やすく、機能的な内容にリニューアルする。
※学校ホームページの内容を充実し、校長室だよりや各種たよりをはじめ、研修会、教材紹介等、積極的に教育情報を発信する。
- (3) 校内研修の充実やICTの活用等を工夫し、教育内容の質の向上を図るとともに教員のノウハウの共有化・蓄積化を促進し、専門性の向上を図る。
※教職員研修の充実と、タブレット端末等を活用した研修の実施により、授業におけるICT活用の取組みを促進する。
※情報モラル、スキル向上に資するため、情報教育研修会の内容を充実させる。

4 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 一人ひとりの人権を尊重し、いっそう安全・安心な学校づくりの推進
※平成25年度の保護者向け学校教育自己診断における危機管理に係る取組みの満足度は94%であったが、更に機能的な内容に充実させる。
- (2) 安全教育や健康教育（食育を含む）の指導法の開発及びその実践の進化
※平成25年度の保護者向け学校教育自己診断における安全教育や健康教育の満足度は90%を超えているが、施設・設備の安全や美化の満足度では、70%前後である。学校の老朽化はあるが、耐震・改修工事も25・26年度で行われるため、毎年充実できることをめざす。
- (3) 危機管理マニュアルを毎年検証し、安全で安心な学校づくりを推進する。

※ヒヤリハット事例集を平成24年度に作成。今年度も事例集を活用したマニュアルの検証や避難訓練の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>教育的ニーズを踏まえた教育活動の充実・展開</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」の充実、活用、一人ひとりの障がいの状況や特性、到達度を踏まえた学習指導プログラム等の活用</p> <p>① 個別支援の充実 ② 授業アンケートの活用</p> <p>(2)自閉症スペクトラム障がいのある児童・生徒の特性に応じた指導内容・方法の改善</p> <p>(3)保護者との連携の強化</p> <p>①家庭訪問の全校的実施と個別の教育支援計画の作成・活用への反映 ②校長室だより、学校通信、学年通信の発行。学校教育情報のホームページでの積極的な発信</p> <p>(4)27年度新校開校、高等部受け入れのための準備（教育課程等）</p>	<p>(1)①適切な指導・支援の基礎となる発達課題の把握のためのアセスメント検査の実施と同研修の充実を図る。個々の障がいや発達への理解を深めた上での教育内容、教材活用の工夫をする。</p> <p>②授業アンケートの実施（年3回）、結果のフィードバックにより授業力の向上を図る。また、保護者の授業アンケートの参画率向上をめざす。</p> <p>(2)自閉症指導の研修により指導法を検討し、場と時間割の構造化を促進する。</p> <p>(3)①5月の家庭訪問において本人・保護者のニーズを把握し、個別の教育支援計画を作成し、検証する。もって、家庭との連携を強化する。</p> <p>②「校長室だより」月4回発行。学期ごとの「学校だより」発行。学部・学年通信の充実。ホームページでの校長室だより、学校だより、学校協議会の内容等の教育情報を発信する。</p> <p>(4)校時・行事等教育課程の検討、準備のタイムテーブルに基づいた実施。新校への引き継ぎ事項などをまとめる。</p>	<p>(1)【 】・25年度結果</p> <p>①校内でのアセスメント実施者は各学部5名以上育成、学校教育自己診断（以降「自己診断」）「教材教具の工夫」【88%】→90%教材交流会の開催</p> <p>②「自己診断」「教育支援計画の活用」【93%】・「個別の指導計画の活用」【92%】→ひきつづき90%以上「授業アンケート提出率」【68%】→70%以上</p> <p>(2)自己診断に自閉症の指導に関する項目を加え、肯定回答80%以上を得る。</p> <p>(3)①自己診断「保護者との適切な相談」【89%】・「PTA活動は積極的」【92%】→90%以上</p> <p>②自己診断「連絡帳や学年通信の情報提供」【95%】→95%以上の維持校長室だより月4回（教職員・保護者向け）発行、学校だより年3回発行。教育情報発信、掲載内容の充実</p> <p>(4)月1回以上の準備委員会開催。新校WGとの積極的な連携。</p>	
<p>キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1)キャリア教育プログラムの研究・開発・推進</p> <p>(2)教職員のキャリア教育・進路指導のスキルアップ</p> <p>①キャリア教育の意義及び必要性の意識向上 ②教職員の指導力アップ</p> <p>(3)保護者へのキャリア教育の啓発</p>	<p>(1)キャリア教育プログラムの充実と全校的な検証。高等部との連携を強化する。</p> <p>(2)①外部関係機関との連携強化、外部講師による講演・研修を実施する。</p> <p>②キャリア教育の系統性、進路先の理解、進路指導の方法の理解等をテーマにした校内研修の充実を図る。</p> <p>(3)高等部や卒業後の情報を盛り込んだ「進路だより」の充実。保護者向け研修会、施設見学会を実施する。</p>	<p>(1)自己診断「キャリア教育の実施」保護者【72%】→75%以上教職員【76%】→80%以上</p> <p>(2)①外部講師の招聘を年2回行う。</p> <p>②自己診断「教職員向け学習会の充実」【78%】→80%以上</p> <p>(3)自己診断「保護者向け説明会、進路だよりの充実」【92%】→90%以上の維持、進路だよりの学期ごとの発行。</p>	
<p>センター的機能の充実と専門性の向上</p>	<p>(1)地域支援の充実と、交流及び共同学習の推進</p> <p>① 地域小・中学校の支援教育のサポート ②支援教育理解講座やケース会議の開催の促進 ③学校間交流の充実</p> <p>(2)学校ホームページの充実</p> <p>(3)教員の専門性の向上</p> <p>①教員研修の充実 ②ICT機器の活用</p>	<p>(1)①地域支援リーディングスタッフ、コーディネーターを中心とした地域小・中学校への訪問授業指導、個別児童生徒のケース会議でのアドバイス充実を図る。・支援スタッフの人材を育成する。</p> <p>②外部講師の他、本校教員による講座を行い、次次コーディネーターを育成する</p> <p>③生活指導部・児童生徒会を中心に学校間交流の充実と地域連携を強化する。</p> <p>(2)ホームページへの教材教具や学校だより等を掲載、学校紹介の充実。</p> <p>(3)①WISCIV、K-ABC等、アセスメントスキル向上の研修を行う。</p> <p>②ICT機器の研修を充実させる。</p>	<p>(1)①自己診断「センター校としての体制」【72%】→75%以上</p> <p>②自己診断に公開講座等に関する項目を加え、肯定回答80%以上を得る。</p> <p>③保護者向け自己診断「交流及び共同教育の推進」【67%】→70%以上「児童生徒会活動が活発」【90%】→90%の維持</p> <p>(2)HPアクセス件数の増加</p> <p>(3)①自己診断「校内研修の計画的実施」【83%】→85%以上「校内研修の効果」【79%】→80%</p> <p>②自己診断「ICT機器の活用」【72%】→75%以上、タブレット端末活用研修開催3回以上。</p>	
<p>安全・安心な学校づくりの推進</p>	<p>(1)一人ひとりの人権を尊重した学校づくり</p> <p>①施設・設備の安全・美化 ②教職員研修の充実</p> <p>(2)安全教育・健康教育・食育の指導の充実</p> <p>(3)危機管理に強い学校づくり</p> <p>①危機管理マニュアルの検証 ②防災用品の充実 ③ヒヤリハット事例集の活用</p>	<p>(1)①26年度予定の耐震工事・大規模改修工事にむけた専門委員会の設置。27年度高等部受け入れ準備委員会での検討や工事に関する安全対策を行う。</p> <p>②人権委員会を中心とした人権研修を充実させる。</p> <p>(2)保健だより、食育だよりの毎月発行、保護者への情報提供を行う。学校保健委員会との連携強化を図る。</p> <p>(3)①警察・消防等の意見を取り入れた災害時マニュアルと管理体制の検証と見直しを行う。</p> <p>②PTA等との協力体制による防災備品のさらなる整備をめざす。</p> <p>③ヒヤリハット事例の研修を実施する。</p>	<p>(1)①拡大施設委員会・受け入れ準備委員会の月2回以上の開催 夏祭り・PTAプールの開催を検討 PTA・後援会のあり方を検討</p> <p>②自己診断「子どもの人権への配慮」教職員【90%】保護者【89%】→93%以上</p> <p>(2)自己診断「健康に必要な情報提供」【96%】→95%以上の維持</p> <p>(3)①自己診断「消防・警察との連携」【88%】→90%以上</p> <p>②自己診断「PTA活動への積極的参加・協力」【77%】→80%以上</p> <p>③自己診断「校内研修の活用」【79%】→80%以上</p>	